

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100078		
法人名	有限会社プログレス		
事業所名	あい楠見(認知症対応型共同生活介護)		
所在地	和歌山市楠見中197-8		
自己評価作成日	平成24年1月3日	評価結果市町村受理日	平成24年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3090100078&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あい楠見は地域密着型の複合施設です。デイサービス、高齢者住宅、小規模多機能が施設内にあります。施設周辺は協力医療機関である病院と住宅に囲まれ、施設前の道路はスクールゾーンになっています。

複合型サービスの事もあり各サービスにスタッフが配置されており利用者の方へのレクリエーションのアイデアや行事の取り組み等も意見を交換したり、各部署の管理者やリーダーが話し合う時間を設けサービスの質の向上や職員指導などについて連携し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは小規模多機能型居宅介護、高齢者専用居室、デイサービスと共に地域密着型複合介護施設の中にある。協力機関としての病院や他施設との連携で、医療面や生活面での多様なサービスが提供できる。管理者・職員は入居者一人ひとりが不安なく家庭にいるような生活を支援するために会議や研修を重ねて生活の維持と向上に取り組んでいる。職員が数名の入居者の担当になることで、より深く入居者の思いや意向をくみとり、家族との連絡・報告も密になっている。その入居者の思いを元に季節に応じた行事や外出を行い、張合いや喜びのある生活を実現している。入居者の居心地良さにつながるという意識で職員同士のコミュニケーションも大切にし、ケアの質の向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念をリビングに掲げ意識付けをすることで共有し実践に努めている。	法人の理念とは別にグループホームの理念をリビングに掲げて、常に目にする事で職員の意識の統一と理念の実現を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、溝掃除や地域の行事に参加している。民生委員の定例会に参加する。	地域の一員として自治会に入り、溝掃除など地域の行事にも参加している。施設全体の夏まつりには地域の参加もあり、小学校の運動会参加の目標も実現できた。学童見守りの「きしゅう君の家」になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が集まるスーパーへ入居者様と共に出かけ交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き、入居者様の近況報告を行い、又、家族様より意見を頂きサービス向上に務めている。	多方面の参加者を募り、他事業所との相互の参加も行い、2か月に1度開催している。事業所からの報告と共に検討事項や質問などの意見交換が行われサービス向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には事務的な事では助言を頂いているが、サービスの取組については話し合いができていない。	管理者は頻繁に市の担当課に出向いている。「あい楠見だより」を持参したり、事業所の取り組みについてはファクスで送って知らせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を配置し、定期的に委員会を開催し、身体拘束ゼロに取り組んでいる。	身体拘束はないが、言葉による拘束など日頃のケアの中で気付きにくいことには職員の意識付けが大事と考え、順次身体拘束委員になり会議を持つことで理解が深まるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての外部研修や、職場内の勉強会に参加し、学び、虐待防止に務めている。		

【事業所名】あい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会に参加し、成年後見制度について学び、職場内の勉強会でも活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族様が不安や疑問点がない様時間をかけ、十分な説明を行うよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず入居者様の状況を伝え、家族様の要望を聞くようにしている。	職員が事務連絡時にグループホーム便りに一言書くことで話しやすい関係を築き、訪問時には意見・要望を聞いている。年2回のアンケートで普段言えない事を表せる場を作っている。	家族の思いをきめ細かくとらえる為に、アンケートの行い方を検討し、より多くの回答が得られることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議、スタッフ会議、GH会議を定期的に設け意見を聞き、それらを反映させている。	職員の意見・提案は会議を重ね上層部に届くようにし、運営に取り入れている。話しやすい関係が持てるよう職員とのコミュニケーションを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段よりスタッフの意見に耳を傾け、施設長、管理者、リーダーが参加する責任者会議の中で取り上げ、働きやすい職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職場内研修を設け、外部研修を受ける機会も設け、知識や技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の勉強会・見学会等で交流を図り、情報交換し質の向上に取り組んでいる。		

【事業所名】あい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より担当職員を決め、本人との会話の中での不安や要望等を気付き、寄り添う生活の中で信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様との話し合いの中で意見・要望等に耳を傾けよりよい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状況をセンター方式等を用い、アセスメントを行う事でよりよいサービスが行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に日々の生活の中で役割を持って過ごしてもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と普段より本人の状態を報告しながら共に支援していく関係を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人がホームに面会に来て頂くように家族に働きかけている。	家族を通してなじみの関係が途切れないよう働きかけ、家族の協力で毎月墓参りを続けている入居者もいる。入居者を心配する周囲の人に対しても訪問を受け話が聞けるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の訴えを引き出し、職員が間に入ることで円滑な人間関係が築けるよう努めている。		

【事業所名】あい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様に対しても他のサービスを紹介し、支援していくように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、本人の思いや希望を聞き、意向の把握に日々努めている。	日々のかかわりの中で声をかけ把握するよう努めている。また、職員が考えたアプローチ方法を実施し、入居者自身が手書きした言葉から一人ひとりの思いや希望を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活習慣や生活環境を本人又は家族から情報を収集する事で馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を記録に残すと共にスタッフ間での申し送り、伝達により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために本人、家族、サービス計画担当者を交えケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	日頃の関わりの中から入居者や家族の意向をとらえ反映している。3か月に1度のモニタリングを行い、職員の意見を取り入れて現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を介護記録に記入し日誌、連絡ノートを使用、又申し送りにて統一したケアを行う事が出来るよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を知るため、日々コミュニケーションをとり、ニーズに対応出来るよう取り組んでいる。		

【事業所名】あい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽・体操・習字のボランティアに来て頂いた方との地域密着をはかっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、又は医師との連携をとり、適切な医療を受けていただける様支援している。	入居前のかかりつけ医を継続するか事業所の協力病院にかかるかは個々の希望による。受診は家族との接点であるという考えから家族の通院介助を基本にしているが、協力病院との連携で適切な支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の日々の変化を観察し、看護職との連携を図り、適切な受診や看護をうけられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日々の状況を病院又は関係者に正確に伝えられる様利用者情報表を利用し、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け、本人や家族様の思いに寄り添えるよう常に話し合いを持ち、信頼関係を築けるよう取り組んでいる。	今まで終末期を迎えた入居者はいなかったが、本人・家族の希望があれば対応する方針である。事業所ができる重度化に伴う介護の体制を整える為、職員の研修を協力病院で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、日頃から勉強会を持ち、応急手当、対応を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より定期的に指導を受け、避難訓練を実施している。	年2回施設合同で入居者も参加して避難訓練をしている。グループホーム単独ではないので施設全体の助け合いが期待できるが、地域との協力体制を築くには至っていない。	協力体制について運営推進会議で話し合うなどして、地域の人々の理解と協力を得られるような関係を築く取り組みが望まれる。

【事業所名】あい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々利用者様に対し、尊敬の気持ちを持って常に接するよう心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し自分でできることは自分でする事を基本にし、言葉かけも穏やかに誇りを傷つけないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と日頃より多くの対話の時間を持てるよう努力し、その中で本人様の思いや希望を聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個人のペースに合わせ、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたらすぐに着替えるよう声かけし、その日着る服の希望を聞くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶碗や汁椀など個々に別の物を使用し、白米・粥は選択してもらい食してもらっている。	食事は配食であるが、ご飯とみそ汁、おやつは入居者の好みや希望を聞き事業所で作っている。また、職員も同じテーブルを囲み楽しく食事できる配慮をしている。一人で食べたい人はテーブルを別にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量が低下した場合には本人の嗜好を取り入れたり、食事形態の見直しを図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い、自己にて出来ない利用者様には介助を行っている。		

【事業所名】あい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、訴えがあればその都度対応を行っている。	排泄チェック表を使用し一人ひとりに応じた対応で、おむつやりハビリパンツの使用量が減ったこともある。夜間もそれぞれに合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者に対して看護師や医師と連携し、便薬の調整やお腹の音を聞く等し、改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間など利用者の意向や、以前の生活に沿った対応している。個別に湯の温度や入浴方法にも気を遣っている。	職員体制を工夫し夕食後の入浴にして、それまでの生活習慣に沿った入浴支援をしている。就寝前温まると安眠でき入居者の生活の満足につながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠される場合には居室で休んでもらったり、昼食後、利用者の状況に応じて臥床時間を設けたり声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更があれば職員が周知する事に努め、利用者の状態に変化があれば看護師、担当医師との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事を行っている。日々の生活では利用者が出来る事を個別に考え、役割をもって頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日にはドライブに出かけ、外出の機会を設けている。目的地は利用者の希望を聞いている。	ドライブや買い物、外食、観劇、花見など入居者の希望と好みに沿って積極的に戸外に出かける支援に努めている。墓参りの習慣も続けられるよう支援している。	

【事業所名】あい楠見

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な利用者に関してはご家族の方に理解を頂き、買い物に出かけたりした際には使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者やご家族の希望があれば電話をしていただいている。年末には年賀状を利用者のみなさまに書いて頂き、ご家族へ送付した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節に応じた飾り付けを利用者と一緒に作成し飾っている。各個室前にはそれぞれ違う飾り付けを行い、区別できるよう工夫している。	多くの入居者が寛ぐ主たるリビングのほか、小さなリビングを作り、訪問した家族と過ごしたり、他の入居者と食事を別にしたい人が利用でき、共同生活であっても一人ひとりの快適さに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外に廊下にもソファを設置し、気の合う利用者同士がお話をされたり出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のこれまでの生活歴を尊重し、本人が落ち着いて快適に過ごせるような居室環境を考慮している。	備え付けの家具のほかに、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。夜間、居室の明かり取りのガラス部分から入る光が気になる入居者に配慮し塞ぐ等、細やかに対応し居心地良く暮らせる支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存機能を個別に把握し、日々の生活の中でそれを活かして役割をもって頂き、自立した生活への援助に努めている。		